

第28章 このチャルコの戦争で起きたことについての最後の章では、メシーカの重臣たちと他の者たちが、チャルコの王族の息子たちである要人たちを捕虜としたこと、そして戦争で起きた他のことについて扱う。

メシーカ人とチャルコ人の戦争が、前述の場所で決着した後、チャルコ人たちが、3人の有力者たち、トラカウエパンとその同胞である武将2名、そして23人を超える戦士たちと一緒に帰還したのは、先に語った通りである。¹メシーカ人たちがメシコ=テヌチティトランへ到着したとき、チャルコの王族の息子である3人の有力者たちを引き連れていた。1人目は、テオキスキという武将でクアテオトル王の長男、2人目はトラワカショチトルといい、3人目はウエツィンといった。モンテスマ王の前に到着した彼らは、伝令の内容と、二度目と三度目の戦争の終結を説明し、チャルコの3人の王族と60人の戦士たちを紹介した。王座についたモンテスマとシワコアツィン〔シワコアトル〕へ、彼らはこう言った。「王よ、我らの家、我らの王国、汝の坐する所であり、『トルツァラン、アカツァラン〔葦の中の地〕』、²この王都テヌチティトラン=メシコのすべてが鎮座する場所、そこには、畏き神テツァウィトル・ウィツィロポチトリが、その高き地に在って、支配し、統治し、活動なさる場所に我々は帰着した。チャルコたちは我らの手中にあるのだから、完全に打ち負かすべきである。我らはそれらすべてを説明し、そしてチャルコの全ての地域に入り込み、そこにメシーカを招き入れなければならないのだ。」するとモンテスマ王は、メシーカ人たちとチャルコの有力者たちに「皆の者、よく来た。休息を取り、チャルコの者たちの地位や功績に応じて、それらの者たちを処遇するように」と答えた。モンテスマは、シワコアトルとトラエレルツィン〔原文ママ〕にこう言った。「我が兄弟たちよ、この出来事と、チャルコの要人である捕虜たちについてどう思うか。これは良いことなのか、そうではないのか。」これに対して、2人の重臣、メシーカの武将であるシワコアトルとトラカエレルツィンはこう答えた。「王よ、汝の望みとは、講和し、これらの捕虜たち、チャルコの要人たちを解放することだ。それは同意できない。我らメシーカが戦いを始めたのであり、我らが臆病者の恥知らずとさ

¹ 前述の場所とは、25章まで遡ってチャルコ領内のツォンパンテペクとアコルコを指す。そこでメシーカが捕らえたチャルコの捕虜3名の顛末を本章では扱う。一方で、25章で並列的に記したトラカウエパンを含むメシーカの捕虜3名のいきさつを26章、彼らの吊いの儀式キトレパンケツァを続く27章とした結果、本章で25章へ立ち返る構成をとっている。

² 原注64 「トルツァラン、アカツァラン」。字義的には、「トゥレの中、葦の中。」(編注)

れてしまうからだ。それに遅かれ早かれ、我らは彼らを支配する者となるからだ。我らは策略と欺瞞によってチャルコたちを従わせたのであり、良き戦いの場での努力と勇気によって、彼らを見事に打ち負かしてメシコ王国に従わせたのではないと、人々は後に思うだろう。」こうして彼らは、再びメシーカの者たちに「諸君、汝らの家や王都なのだから、くつろいで休息せよ」と言った。テオキスキとトラワカアショチトルとウエツインが言葉を返すと、彼らの結婚の相手としてメシーカの要人の娘たちが与えられた。これに満足した彼らは返答して、これは、彼らの一族の者たちと土地や領地に対する何よりの榮譽であり、安息し、喜んで休むと伝えた。そして戦争に関する他のことについては、決着まで行き来すること——なぜならそれは互いにとって、戦争の終結〔を意味すること〕であり、なかでも人々の監視に細心の注意を払うこと——を伝えた。³こうして、メシーカ人たちはチャルコの戦争を再開した。メシーカ陣営がいたココティトランへ着くと、戦いの準備をさせながら、武将であるトラコチカルカトルとトラアカテエカトルは、彼らにこう言った。「メシーカの兄弟たちよ、栄光の戦場であり、山⁴であり、金のある貴重な場所であり、この上なく輝かしく喜ばしいこの戦いに、我々は皆、ここに集結している。我々の勝利はメシコ＝テヌチティトランの大いなる喜び、誉れとなるだろう。そして我らは、喜びの戦場で死ぬためにやって来た。それは我らの務めである。テヌチティトランのメシコ帝国は、すでに、安泰であり、歓喜に満ちている。さあ、粉骨砕身して、無知蒙昧な連中との戦いの場で、しっかりと借りを返してくるのだ。さあ、それぞれが、チャルコで最も勇ましい男、勇敢な武将、位の高い者に、戦いを挑むのだ。」こうして、メシーカ人たちは勇気を奮い立たせ、咆哮し、ラッパや法螺貝や太鼓を鳴らしながら、チャルコ人たちに襲いかかった。そしてチャルコ人たちは「さあ、メシーカよ、我らには遅すぎて、待ちわびたぞ」と言った。両陣営は猛烈にぶつかり合い、陣営の主将たち、勇敢な戦士たち、名高い武将たちを捕らえ始めた。「一人目は、テナマスクイクイル、次にアスタコアトルとウエウエ・カカンカトル〔後述のサカンガトル〕、それからシワコアトルとトラカエレルツイン、ツオンパンツイン、クアウトレコアトル、ネプコアトル、カワルツイン、イシュクエトラントク、メカツイン、シコノク、クアウツィツィミトル、シワコアトル、トラウエロク、トラカコチトク、トラソルテウトル、テミクツイン、クアウツイン、他に名の知れ

³ ドゥランの記述では、王族の3人の息子たちは、チャルコからの裏切り者として加勢を言い添えるが、信用ならざる者として処している。

⁴ ナワトル語のテヨトル(teyotl)の概念。

たメシーカの若者はいなかった。⁵この者たちは皆、多大な努力と勇敢さで、チャルコの多くの有力者と要人たちを捕らえた。そしてチャルコ人たちの後を追って、クアウテチカク⁶と呼ばれる場所まで登り、^{セロ・デル・ポルカン}大火山の登り道を進み、シエラ・ネバダのすぐ近くを通り、ウェショシンゴとの境目まで踏破した。そこでシワコアトルはトラカエレルツィンにこう言った。「汝は、何をしているのだ？ チャルコたちを戻らせよ。彼らが我々の元を去ってしまうぞ。女や子ども、老人たちが鎖で繋がれ、保護されているというのに。」チャルコ人たちがウェショシンゴへ入ると、トラカエレルツィンは彼らに「友人であるチャルコたちよ、戻るのだ。我らはもはや武器を使わない。我らのいる元へ戻るのだ」と言った。こうしてメシーカ人たちはチャルコ人たちを戻らせたが、その数はもはや半数にも満たなかった。そして戻っていった者たちの一部はウェショシンゴへ入り込んでいたが、彼らを戻らせたのは、武将のサカンガトル・テウクトリであった。敗北したチャルコ人たちは彼にこう答えた。「メシーカよ、これ以上はよしてくれ。我らはあなたたちに仕えるつもりだ。我らは山深い所に住んでいるから、あなたたちの家を建てる木や石材、カヌーを〔貢物として〕運ぼう。そして同様に、我らの家と土地の境界は、テチチコより向こうを越えることはない。そして、王の道⁷がある場所を取り、あなたたちの間で分けるのだ。我らはそこでお迎えし、メシーカたちに仕えよう。そして皆さん、このことを確かに果たし、過不足なく守ると、約束しよう。」そこで、メシーカの武将であるトラカテエカトルは次のように述べた。「さあ、チャルコたちよ、あなたたちが果たし、守るべきことを、いつしか、そんなことを言っていないと言ったり、偽って、そのようなことを約束したと言ったりしてはならないぞ。」チャルコ人たちは言った。「そのようなことは決して起こらないだろう。なぜなら我らはあなたたちに対して、あらん限りの力と勇敢さを示したが、あなたたちに打ち勝つほど強くなかった。むしろ、悪くなっていくばかりで、13年かけてもはや破滅していく一方だった。⁸今日から、我らは背負子、縄、カカシュトリ〔背負子〕を手に取りることとする。⁹」こうして勝利したメシーカ人たちは、彼らの捕虜たちと共に帰った。そして重臣たちはメシコの王宮にいるモンテスマ王のもとに参内した、大勝利と歓喜に意気揚々

⁵ 終わりの」(かぎかっこ：原文では”)が脱落している。

⁶ 語彙集によれば、ポポカテペトル火山のアマケメカ側の山腹(地点不明)。

⁷ 現在の幹線道路 115 号線。

⁸ 原注 65 チャルコ、13 年。〔チャルコに下線、および数字の書き込み。〕

⁹ メシーカ人に貢納をすることを意味する。

とし、かつてないほど多くの捕虜を前に歩かせて入ってくるメシーカ人たちを見て、王は彼らにこう言った。「武将トラカエレルよ、シワコアトルよ、¹⁰この戦いの勇敢な戦士と隊長らを示すがよい。そして、チャルコたちを捕らえて連れてきた者たちを、耳と鼻に穴をあけて示すがよい。」そして、シワコアトルは、勇敢なチャルコ人たち、征服者たちを実際に見た者として、そうしたメシーカ人たちを自らの手で称え顕彰し、彼らに様々な紋章や武具や豪華な羽根飾りを身につけさせて、主だった者たちから歌やアレイト〔踊り〕の場に入らせると言った。そして、こうした顕彰がなされると、これらの者たちはチャルコの土地に行き、彼らの間で土地を分配した。最初にモンテスマ王へ、それからシワコアトル、武将トラカエレルへ、土地が与えられて分配された。与えられた土地とは、アスタワカン、アカキルパン、トラピツァワヤン、そしてトラペチワカン、5番目としてココティトラン、アワテパン、ウエシヨコルコ、テポポランであった。続けて、顕彰されたメシーカ人たち全員に、次から次へと、同じ場所と土地においてその所有や境界を示す印を付けて、それら一つ一つを名付けていった。こうして、チャルコ人たちは敗北し、臣下となった。

【訳：岡崎雅子 2026/03/19】

¹⁰ 語末の tze、le は、ナワトル語で呼び掛けの表現。